

# SEA LIFE NEWS

TOKYO SEA LIFE PARK



葛西臨海水族園

## サザングローブフィッシュ

【英名】 southern globefish

【学名】 *Diodon nichthemerus*

オーストラリア南岸の浅い海にすむ、全長約30cmになるハリセンボンのなかまです。

体の表面にあるトゲは、ふだんは寝かせたまま泳いでいます。危険を感じると水を吸い込んで全身をふくらませ、体のトゲを立てて身を守ります。

丸い大きな眼でエサを探し、くちばしのような形のかたい丈夫な歯で、海底にいるカニやエビなどを食べます。のんびりしているように見えますが、飼育スタッフが水槽に近づくといち早く気づき、水面まで上がってきます。エサを与えると、他の魚に負けじと猛スピードで泳いで食いつきます。

「オーストラリア南部」水槽で展示しています。ぜひご覧ください。 (飼育展示係 関 啓汰)

## CONTENTS

### SEA LIFE TOPICS

- お待たせしました! 「ペンギンの生態」 エリア展示再開
- 「イニシャルフェイズ」「ターミナルフェイズ」って何?

### なぎさNEWS

- 二枚貝は緑の下の力持ち!
- なぎさで探そう! こんな生き物 「オオバン」

### 水族園のもう一つの顔

- 水族園流 種名ラベルのこだわり

### TSLP LATEST



Vol.23 No.1 2025

FEBRUARY

通巻

120

## お待たせしました! 「ペンギンの生態」エリア展示再開

約11カ月におよぶ補修工事が終了し、2024年11月28日に「ペンギンの生態」エリアの展示が再開しました。展示場に戻ったときのペンギンたちは、真っ先にプールに入り、端から端まで素早く泳いだり水面で熱心に羽の手入れをしたりと、のびのびと過ごしていました。今回の工事は老朽化にともなう補修工事のため、展示場の構造自体は変わっていません。しかし、変わった部分もいくつかあります。まずプールの塗装の色です。以前はクリーム色でしたが、灰色に変更しています。これは、フンボルトペンギンの生息地を再現している岩場の景観に合わせるためです。また、明るい色は光を反射しやすく、ペンギンの目に悪影響を与える可能性があ



展示再開した「ペンギンの生態」エリア

ることから、この色を選びました。向かって左側にあった岩組は劣化が激しく、全て取り壊しました。範囲が広く、全てを再建するのは難しかったため、一部は岩をなくし床に砂を敷きました。平らで硬い床はペンギンの脚に負担がかかりますが、砂地にすることで負担を軽減できます。作り直した岩組のうち、手前の部分は、砂地にいるペンギンが観察しやすくなるよう、低くしています。また、水中を観察できるアクリルも綺麗に磨いてもらいました。泳ぐペンギンの姿を、以前より観察しやすくなっています。

ご来園の際は、展示場で過ごすペンギンたちに、ぜひご注目ください。(飼育展示係 内山 幸)



ペンギンの脚に配慮した砂地

## 「イニシャルフェイズ」「ターミナルフェイズ」って何?

「東京の海」エリア「小笠原の海 1」水槽で展示しているヤマブキベラ。水槽横の種名ラベルを見てみると「イニシャルフェイズ」、「ターミナルフェイズ」の2種類があります。これを見て「イニシャルフェイズ、ターミナルフェイズって何だろう?」と疑問に思った方もいるのではないのでしょうか。

「イニシャルフェイズ」は「初期の段階」、「ターミナルフェイズ」は「最終的な段階」という意味で、多くがメスからオスへ性転換するベラやブダイのなかまで使われています。メスからオスへの性転換ということは、イニシャルフェイズの姿は「メス」のはずです。ところが、ベラやブダイのなかまに、イニシャルフェイズの姿をしたオスがいることが分かってきたのです。体の色や形では「メス」と「オス」が判断できないため、このように呼ばれるようになりました。つまり水槽にいるイニシャルフェイズはメスまたはオスの可能性があるということです。



イニシャルフェイズ

黄色で、頭やヒレにうすく赤い模様が入る

ヤマブキベラはターミナルフェイズのオスが縄張りを持ち、そこにやってくる複数のメスと繁殖をします。体が大きな個体ほど、より多くのメスと繁殖して子孫を残すことができるため、大きくなったメスはオスへと性転換し、ターミナルフェイズとなります。一方、イニシャルフェイズのオスは、メスと同じ体色をいかしてターミナルフェイズの縄張りに侵入し、繁殖行動に混ざり子孫を残します。ヤマブキベラは、展示した当初はすべてイニシャルフェイズでしたが、しばらくすると最も体が大きな個体の体色が変化して、ターミナルフェイズに変わりました。今後、繁殖の様子を観察できるかもしれません。ベラのなかまはメス、オスの判断が難しく、繁殖生態も複雑ですが、水槽で行動を観察しているとそれぞれの個体の意外な関係性が分かるかもしれません。(飼育展示係 遠藤 周太)

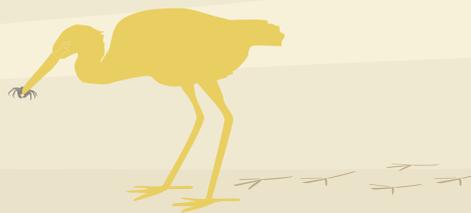


ターミナルフェイズ

赤い模様がぐっと鮮やかに変化。体の中央が青っぽくなる個体もある



# なぎさ NEWS



## 二枚貝は縁の下の力持ち！

「西なぎさ」にもいるアサリやシジミなどの二枚貝のなかまは、海を漂う小さな植物プランクトンなどを食べています。アサリの砂抜きをする時に、2本の管が出ているのを見たことはありませんか？ 1本は入水管といって、海水を取り込む管です。取り込んだ後は、エラで植物プランクトンなどをこしとって食べ、いらぬ海水はもう1本の出水管から出します。つまり二枚貝のなかまは、植物プランクトンやにごりをこしとって、水をきれいにしているといえます。

どれくらい水をきれいにするのか、実験をしてみました。3Lの海水に10mLのクロレラ（植物プランクトン）を入れてにがらせ、そこに20個体のアサリを入れます。すると約60分で見事、にごりがほとんどなくなっていました。

干潟という川から海につながる場所で、水をきれいにする役割を担っている二枚貝のなかまは、海の環境を支える縁の下の力持ちなのです。  
(教育普及係 西村 大樹)



こんなにきれいになりました！

べんそくがきれいに  
なりました！



アサリ(実物大)

## なぎさで探そう！ こんな生き物

見つけやすさ ★★★★★ ☆

サイズ 全長40cm

見つけるコツ

「西なぎさ」の水上を見てみよう。水面に浮かぶオオバンが見つかるかも。ずんぐりとした卵のような体形で、鳴き声は「キョン、キョン」や「キュウ」など高い声で鳴くよ。潜って水面に出てきたとき、オオバンの口元をよく見てみよう。エサとなる生き物をモグモグと食べている姿が観察できるかも。

## オオバン (クイナ科)

### ■オオバンはこんな生き物

クイナのなかまで、湖沼や河川にも多く、一年中、見ることが出来る水鳥。からだは黒く、白い額とくちばしの特徴だよ。水中のエサとなる生き物を食べるため、水に潜ると10秒以上浮かんでこないこともあるよ。脚には木の葉のようなヒラヒラとした水かきがあり、これを弁足というんだ。この弁足のおかげで、上手に潜ることができるんだよ。

葛西臨海公園の「鳥類園」では、草をついばみながら歩く姿も観察されているよ。見つけたら、ぜひ弁足にも注目してみてね。(調査係 藤田 亜耶)



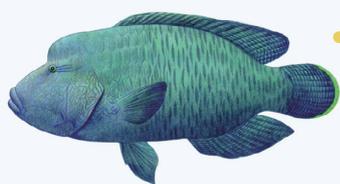
# 水族園 のもう一つの顔

ラベルに着目するのも面白い!



## 水族園流 種名ラベルのこだわり

水族園では約500種の生き物を展示しています。水槽付近に掲示している種名ラベルは、そんな生き物の姿や名前を伝えるためのラベルです。水族園では、統一されたレイアウトで作成しており、じつは、スタッフの細やかなこだわりが込められています。今回は、そのこだわりの一部を紹介します。



### メガネモチノウオ

humphead wrasse  
スズキ目 ペラ科  
*Cheilinus undulatus*



水槽によってラベルの大きさも違うよ

【①絵・写真】生き物の姿を紹介しています。体やヒレの形、生きているときの色など、種の特徴を正確に伝えるため、専門の画家さんに描いていただいた絵を使用しています。画家さんとは生き物の向きや形、模様などを細かく打ち合わせ、何度も修正を重ねて完成させます。しかし、絵の準備がまだできていない種を展示するときは、写真を撮影して使用することもあります。

【②名前】日本の海に分布している種は、和名(日本語の正式な名前)を表示しています。そうでない種は、現地の名前や学名をカタカナで表しています。「世界の海」エリアでは、さまざまな国の生き物を展示しているため、聞き馴染みのない名前もあるかも。

【③英名・現地名】英名や現地名をアルファベットで表しています。メガネモチノウオの場合、英名は「humphead wrasse」。これは「頭にこぶのあるペラ」という意味。ほかにも和名と違った由来の種もいるから探してみよう。

【④分類】特定の図鑑や本をもとに表示しています。分類の研究が進んで、情報に変更されることがあります。そのため、新しい研究を日々確認することが大事。同じ分類の生き物を見比べて、似た部分を探してみよう。

【⑤学名】ラテン語で書かれている世界共通の名前です。水族園ではイタリック体で表示しています。

種名ラベルは、水族園スタッフが手作りしています。これは、展示する生き物が変わったときにすばやく対応するためで、これにも水族園流のこだわりが。ラベル作成の様子は、別の機会に紹介します。(教育普及係 小川 悠介)

## TSLP LATEST

TOKYO SEA LIFE PARK

- 11/28 「ペンギンの生態」エリア展示再開
- 12/8 高校生・大学生向け講座「海の学び舎2024」第1回開催
- 12/21 「サンゴ礁の海」水槽にサンゴ類120群体搬入
- 12/18 「葛西の海2」水槽をエンドハゼ、シラタエビの展示に変更
- 12/25 「大洋の航海者 マグロ」水槽にマイワシ4000尾を搬入
- 1/2-5 「水族園のお正月2025」を実施
- 1/22 「深海の生物1」にゲッコウスズメダイを展示
- 1/9-2/28 都立動物園・水族園に行こう! 2025デジタルクイズラリー開催



TOKYO  
SEA LIFE  
PARK

### 編集後記

「ペンギンの生態」エリアの展示が再開しました。水の中でのびのびしているペンギンたちを見ると、改めて、広いプールはいいなと思います。自由自在に水中を泳ぐペンギンを観察してみましょう。「飛ぶように泳ぐ」という表現がぴったり。紡錘型の体や船のオールのような翼など、速く泳ぐのに適したペンギンのフォルムに感動しますよ。(高濱)

### SEA LIFE NEWS 通巻 120

Vol.23 No.1 2025 FEBRUARY 2月1日発行(次号は2025年4月発行予定)

編集 葛西臨海水族園  
〒134-8587 東京都江戸川区臨海町 6-2-3  
TEL.03-3869-5152  
www.tokyo-zoo.net/

発行 公益財団法人東京動物園協会  
〒110-0008 東京都台東区池之端 2-9-7  
池之端日殖ビル7階  
TEL.03-3828-2143

